

ワークショップ 6

「下痢と便秘の診断：問題点と対策」

司会 河野 透（医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院外科・先端外科センター）
福土 審（東北大学大学院医学系研究科行動医学）

下痢と便秘は極めてありふれた消化器症状である。しかし、その背後には最新の科学によって明らかになって来た分子機序、腸内細菌、消化管免疫、消化管運動、内臓知覚、脳腸相関、心理社会的因子が存在する。更には腸液分泌機構、消化管粘液、胆汁酸、ゲノム、直腸肛門機能、投与薬物、併存疾患を含めた視点から個々の患者を見て行く必要がある。本ワークショップではその診断の問題点を中心に、どのように最新の診療を進めるべきかを討議する。